

令和4年11月21日(月)、「令和4年度第29回静岡県図書館大会」第3分科会において、福音館書店 書籍編集部部長の山形昌也氏に「科学絵本はたのしい!「かがくのとも」の作り方」という演題でお話しいただきました。本紙にてその一部をご報告します(2ページ)。また、この1年の間に発表された子どもの本に関する賞とその受賞作を一部ご紹介します(3ページ)。

「子ども図書研究室」をご利用ください!

「子ども図書研究室」では、児童書、絵本及び子どもの読書に関する参考図書を置いています。児童書・絵本の選択や内容、幼児期における本の手渡し方の研究などにご利用いただけます。また、各地域で子どもの読書活動を推進している公立図書館、学校図書館、地域の大人の皆さんの情報交換、交流の場としてもご利用いただけます。

- 場 所：県立中央図書館1階
- 利用対象：15歳以上の大人(中学生を除く)
- 利用時間：午後2時～午後5時(職員が在室。その他の時間は、2階総合案内カウンターへの申込みで開室いたします(要貸出カード))
- 団体利用：選書会等の会場としてご利用いただけます。時間は火～金の午前9時～午後5時まで(休日および休館日を除く)ですが、それ以外でも相談に応じます。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数の制限などを行っております。詳細は当館資料課図書班まで。
- 資料紹介：平成15年度以降に発行された児童書(コミック、参考書などは除く)を網羅的に収集しています。
- 研究書・雑誌：子どもの本や子どもの読書に関する大人向けの図書や雑誌を収集しています。

「新刊サロン」動画配信中!

当館子ども図書研究室では、毎月200冊から300冊の新刊を受け入れており、「新刊サロン」ではその中から職員が子どもの本の紹介をしています。新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、当館での「新刊サロン」の開催に加え、YouTubeでも動画を配信しています。期間中はどなたでもご覧になることができます。第5回の配信は令和5年2月下旬を予定しています。

動画配信の様子



※動画では当館で選定した本について、知識、読み物、絵本をそれぞれ10分程度で紹介しています。

【視聴方法】下記二次元バーコードまたは当館ウェブページからURLをクリック

【申込】不要

【お問い合わせ】静岡県立中央図書館 資料課

電話：054-262-1243

FAX：054-264-4268

Eメール：webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

県立中央図書館公式YouTubeチャンネルに移動します。※配信期間にご注意ください。→



図書館大会 第3分科会
「科学絵本は楽しい！「かがくのとも」の作り方」
山形昌也氏 講演

図書館大会第3分科会では、福音館書店書籍編集部部長、山形昌也氏に『かがくのとも』の創刊の経緯や編集に関わった『イワシ むれでいきるさかな』ができるまでの流れ、作者と編集者のやり取り、そして編集者の思いなどをご講演頂きました。

『かがくのとも』は1969年、いろんな生き物のしっぽを取り上げた『しっぽのはたらき』を第1号として創刊された世界で初めての科学絵本である。創刊のきっかけはアメリカが子どもの科学教育のために作成したブックリストの中にあっただ『はなをくんくん』という本であり、物語を大切にしながら科学絵本が作れるなら、知識や情報を与えるだけではない、面白い科学絵本ができるのではないかと考えたからであった。

科学絵本作りでは、著者の持ち込み企画などもあるが、無限にあるテーマから編集者がテーマを考え、著者選びを行うことが多い。テーマと絵本に込めるメッセージに合った著者を探し、著者候補の持つ思いを見極めて原稿依頼をする。その後、ラフを何回も修正・相談、監修者に確認をするなど多くの工程を経て、1冊の絵本が完成する。

講演では『イワシ むれでいきるさかな』ができるまでをラフ（制作物のイメージ、レイアウトやデザインを下書きしたもの）などを用いて見せて頂いた。この絵本は図鑑のイラストなどを描かれている大方忠明氏の持ち込み企画で、2013年に刊行された。群れで生きるイワシが、他の生き物に食べられたり、漁で群れが小さくなったりしても、また大きな群れとなり、命を繋いでたくましく生きていく絵本である。

まず1回目のラフでは、イワシの戦略の「群れで生きる」をメッセージとして依頼したはずであ

ったのに、イワシの死体が随所に出てくる。まず初めの扉絵からメザシの干物という次第であり、卵から始まって、稚魚の段階でもシラスの釜揚げ、畳イワシ、ちりめんじゃこなどが紹介される。著者の気持ちを大切にしながらも、「スイミー」のような仲間と一緒に力を合わせる群れのお話にしましょうと修正を依頼。2回目のラフでは、死体はなくなったが、途中漁師しか使わない、正直いらぬイワシの呼び方が登場。話自体は段々と物語になってきたが、導入が卵であると群れの1匹という気持ちになれないため、群れから始まるように構成を変更した。途中細かな修正を経て3回目でやっと完成原稿と同じ形になる。この時「何も間違いがありませんように」と祈りながら監修者に確認を依頼。イワシを食べるザトウクジラは日本近海ではバブルフィーディングをしないことや、イワシの産卵は実はわかっていないことが判明する。この時、編集者の心の悪魔が「監修者にしかわからないよ」と嘯いてくるのを無視して、間違いの修正や著者のファンサービスで描き足された余分な生き物を塗りつぶすなどして原稿が完成する。

山形氏は「絵本の世界の中に入って驚いたり、感動したりする。そして本を閉じた時、よかったなと思うことは、物語絵本と変わらない。しかし読み終わった後、パッと世界を見渡した時に、新しい見方、考え方、感じ方が育まれて、読む前後でこの世界が違って見えるというのは、科学絵本と物語絵本の大きな違いであると思う。世界をいろんな見方で見られることは、自分自身の生き方が豊かになることではないかと考える」と語った。「自分を取り巻く世界の見方を変え、心の外側を育む科学絵本を楽しみながら、子どもたちに楽しさを手渡してほしい」と締めくくった。（上村）

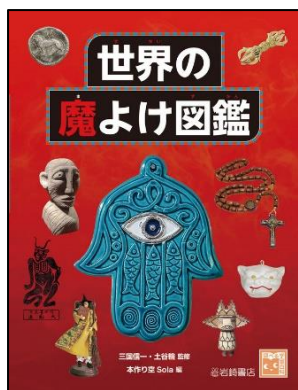
この他、第4分科会では「本の読み方を学ぼう～点検読書をやってみよう～」というテーマで木下 通子氏（埼玉県立浦和第一女子高等学校 担当部長兼主任司書）の講演が行われました。

子どもの本に関する賞

この1年の間に発表された子どもの本に関する受賞作をご紹介します。大賞メインのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。

紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もなお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞事典』（日外アソシエーツ刊 2009年）や『海外文学賞事典』（日外アソシエーツ刊 2016年）などで確認することができます。

| 種 類 | 2022年 受 賞 作 品 |
|-------------------------------|---|
| コ ー ル デ コ ッ ト 賞 | 『Watercress』 Andrea Wang／文 Jason Chin／絵 (Neal Porter Books) 未邦訳 |
| ニ ュ ー ベ リ ー 賞 | 『The Last Cuentista』 Donna Barba Higuera／著 (Levine Querido) 未邦訳 |
| ケ イ ト ・ グ リ ー ナ ウ ェ イ 賞 | 『Long Way Down』 Jason Reynolds／文 Danica Novgorodoff／絵 (Faber) 未邦訳 |
| カ ー ネ ギ ー 賞 | 『October, October』 Katya Balen／作 Angela Harding／絵 (Bloomsbury) 未邦訳 |
| 日 本 絵 本 賞 | 大 賞:『たまごのはなし』 しおたにまみこ／著 (ブロンズ新社) 絵本賞:『おすしやさんにいらっしゃい! :生きものが食べものになるまで』 おかだだいすけ／文 遠藤宏／写真 (岩崎書店) 『はるのひ:Koto and his father』 小池アミイゴ／作・絵 (徳間書店) 翻訳絵本賞:『夜をあるく』 マリー・ドルレアン／著 よしいかずみ訳 (BL 出版) |
| 坪 田 譲 治 文 学 賞 | 『旅する練習』 乗代雄介／著 (講談社) |
| 講 談 社 絵 本 賞 | 『海のアトリエ』 堀川理万子／著 (偕成社) |
| 産 経 児 童 出 版 文 化 賞 | 『こそあどの森のおとなたちが子どもだったころ』 岡田淳／著 (理論社) |
| 日 本 児 童 文 学 者 協 会 賞 | 『夜叉神川』 安東みきえ／著 田中千智／画 (講談社) 『オイモはときどきいなくなる』 田中哲弥／著 加藤久仁生／画 (福音館書店) |
| 日 本 児 童 文 学 者 協 会 新 人 賞 | 『かすみ川の人魚』 長谷川まりる／作 吉田尚令／絵 (講談社) 『うさぎとハリネズミ きょうもいいひ』 はらまさかず／文 石川えりこ／絵 (ひだまり舎) |
| 三 越 左 千 夫 少 年 詩 賞 | 『あさがおのパレット』 福田 恵美子／著 (竹林館) |
| 日 本 児 童 文 芸 家 協 会 賞 | 『聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意』 横田明子／著 (国土社) |
| 児 童 文 芸 新 人 賞 | 『カメくんとイモりくん 小雨ぼっこ』 いけだけい／著 (偕成社) 『カイトとルソンの海』 土屋千鶴／著 (小学館) |
| 児 童 文 芸 ノ ヲ フ ィ ク シ ョ ン 文 学 賞 | 2021 年をもって休止 |
| 小 学 館 児 童 出 版 文 化 賞 | 『そのことが降ってくる 保健室の俳句会』 高柳克弘／著 (ポプラ社) 『海のアトリエ』 堀川理万子／著 (偕成社) |
| ひ ろ す け 童 話 賞 | 該当作品なし |
| 五 山 賞 | 該当作品なし |
| 小 川 未 明 文 学 賞 | 『カステラアパートのざらめさん』 島村 木綿子／著 (学研プラス) |
| 野 間 児 童 文 芸 賞 | 『たぶんみんなは知らないこと』 福田隆浩／著 (講談社) |
| け ん ぶ ち 絵 本 の 里 大 賞 | 『あきらがあげてあげるから』 ヨシタケシンスケ／作・絵 (PHP 研究所) |
| 日 産 童 話 と 絵 本 の グ ラ ン プ リ | 童話の部:『木箱の蝶』 藪口莉那／作 (BL 出版) 絵本の部:『みかんきょうだいのたんけん』 ホソカワレイコ／作 (BL 出版) |
| 静 岡 書 店 大 賞 児 童 書 ・ 新 作 部 門 | 『大ピンチずかん』 鈴木のりたけ／作 (小学館) |
| 静 岡 書 店 大 賞 児 童 書 ・ 名 作 部 門 | 『てぶくろ』 エウゲーニー・M・ラチョフ／絵 うちだりさこ／訳 (福音館書店) |



知識

『世界の魔よけ図鑑』
 三国信一／監修
 土谷輪／監修
 本作り空 Sola／編
 岩崎書店
 2022年8月

「魔よけ」とは悪いものが私たちに攻撃することを防ぎたいと願う、まじないの一つである。日本編からはコロナ感染症を機に有名になった「アマビエ」や青龍・白虎・朱雀・玄武の「四神」、蘇民将来という人がスサノオノミコトをもてなした伝説に由来する「蘇民将来符」を取り上げる。世界編では「蹄鉄」や中東・北アフリカ地域などのイスラム教やユダヤ教を信じる人々の社会で使われる「ハムサ」という手の形のお守りなどを由来や似ている魔よけとともに紹介している。

【小学校高学年から】(上村)

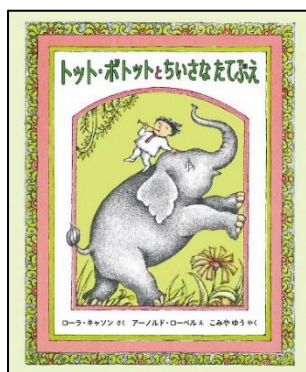


読物

『やまの動物病院』
 なかがわちひろ／作・絵
 徳間書店
 2022年8月

山のふもとの小さな町のはずれ、山の一番近くにまちの先生と猫のとらまるが暮らす「まちの動物病院」がある。とらまるはいつも片目で、患者の診察する先生の様子を熱心に見ている。夜、まちの先生が眠った後、とらまるは診察室のねこ扉の外にかけてある「やまの動物病院 どうぞ」と書いてある札を裏返す。とらまるは、夜になると山に住む動物を診察している。やまの病院を訪れる病気の動物たちと診察するとらまるの様子がユーモラスに描かれている。

【小学校中学年から】(三枝)

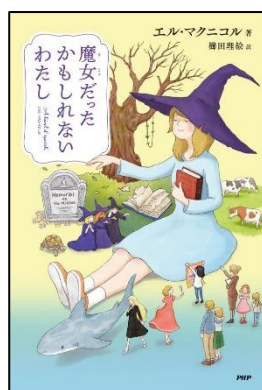


絵本

『トット・ポットとちいさなたて笛』
 ローラ・キャソン／さく
 アーノルド・ローベル／え
 こみや ゆう／やく
 好学社
 2022年8月

小さな男の子トット・ポットに、ある日、お父さんが新しい小さなたて笛を買ってきてくれる。トット・ポットはジャングルの奥深くまで行き、ぴーぴーひゃらりー ぴーひゃらりーとたて笛を吹く。そして「ともだち でてこい でてこい」と言うと、動物が集まってくる。楽しくなったトット・ポットがさらに笛を吹くと、やってきたのは一。表情豊かであたたかみのある細やかな絵と、リズムカルな訳文が印象的な1冊。動物がたくさん集まってくるところも楽しい。

【幼児から】(山下)



読物

『魔女だったかもしれないわたし』
 エル・マクニ科尔／著
 榎田理絵／訳
 PHP 研究所
 2022年8月

両親と双子の姉と暮らす11歳の少女アディは、自閉の傾向に生きづらさを感じている。ある日アディは、人と違うという理由で魔女の疑いをかけられ処刑された人たちがいた話を聞き、大きなショックを受ける。アディはそのことを忘れないために、追悼の慰霊碑の設置を村の委員会に提案するが一。偏見に傷つきながらも、ありのままの自分を受け入れてくれる家族や親友に支えられ、思いをまっすぐに伝え続けるアディの姿が胸を打つ。差別や偏見について考えさせられる。

【小学校高学年から】(山下)